

サマニジ チヤビンジ



「自己肯定感を高め、自信を獲得する子供の育成」
を目指した長期宿泊体験事業の効果検証



はじめに

近年の国立青少年教育振興機構のレポートでは、自然体験や生活体験が多い子供ほど、学力テストの結果や自己肯定感が高い傾向にあることが報告されるなど、自然体験活動の重要性が報告される一方で、子供たちの体験活動の機会や場は減少している状況にあり、体験活動ができる施設の重要性は高まっています。

県立大滝げんきプラザでは、単に自然体験活動を提供するのではなく、宿泊体験期間中においては、慣れない環境の下で、様々な共同作業に取り組むサマーチャレンジを実施いたしました。保護者に守られた、安心できる家庭環境では当然のように行える寝泊りや食事等についても、通常とは違う環境の下にあって不自由な思いがありますが、子供は「親離れ」をして、自主・自律の精神を少しずつ養っていくための大きなチャレンジができます。このことから、困難を乗り越え、様々な環境にあっても我慢強く物事に取り組むための精神や心構えを鍛える機会としました。

また、「集団活動」の長所を生かし、事前指導の段階から始め、個人個人の頑張りたい事、考えている方向性を集団の目標に高められるように促しました。体験活動中には、個々の局面において個人がリーダーシップを発揮させるために、サマーチャレンジ中にリーダー経験をし合うように配慮し、子供たちに様々な役割を与え、目の前のことにどう対応するかチャレンジさせるように計画しました。集団活動は、やがて訪れる社会生活のいわば縮図に当たり、問題解決能力や社会生活力の向上という点において、子供の成長に大きな望ましい影響をもたらすと考えております。

また、長期宿泊体験に際して、

- 1 事前の受入施設・場所を選定すること
- 2 活動プログラムを検討
- 3 まとまった活動日数の確保
- 4 安全管理体制を中心とした期間中の体制を検討
- 5 家庭へ十分な説明・理解を得ること

等を考慮し、実施いたしました。

県立大滝げんきプラザの職員のみでは、事業運営に限界があるため、ボランティアを募り、事業に臨みました。そのため、大滝げんきプラザ職員や学生ボランティアと連携をより強固にするため、事前にボランティア養成講座を実施し、サマーチャレンジに臨みました。

体験活動の専門家が、子供たちの資質能力の向上を図り、子供たちが仲間とつながり、生き生きとアクティブな生活を過ごし、周辺の自然環境や施設の特徴を生かしリアルな体験を提供したことにより、自立心や協調性を養い、仲間同士の交流を図る様々な体験活動プログラムが、自己肯定感をはじめ、自尊感情、自律性、協調性、積極性といった非認知能力の上昇、物事に対する意欲の向上に効果があったと報告されています。

内容を熟読いただき、御示唆をいただければ幸いです。

埼玉県立大滝げんきプラザ 所長 江森 貴文

目次

はじめに

1. サマーチャレンジ事業について

- (1) 趣旨 1
- (2) 実施概要 1

2. サマーチャレンジ事業の内容

- (1) 日程 2
- (2) プログラムデザインについて 3
- (3) IKR 評定「生きる力」の変容調査について 5
- (4) 実践報告 6

3. 調査結果

- (1) 「生きる力」の変容について 8
- (2) 参加者の変容について 9

4. 成果と課題

- (1) 成果 10
- (2) 課題 10
- (3) 事業担当より 11
- (4) ボランティアより 12

1. サマーチャレンジ事業について

(1)趣旨

昨今、青少年の体験を通じた経験値や人とのコミュニケーションの不足、社会性や規範意識の低下等が挙げられる。

埼玉県では「埼玉教育の振興に関する大綱」で、自然体験などの体験活動や人とのふれあい・交流活動の充実を目指し、これを受けた埼玉県教育委員会では「第4期埼玉県教育振興基本計画」で、体験活動を通して豊かな心を育む教育の推進を掲げている。

そこで埼玉県立大滝げんきプラザでは、毎年「生きる力」や「社会性」を培うことをねらいとした、長期自然体験活動「サマーチャレンジ」を企画・実施している。今年度も本事業においては、子どもだけで様々な自然体験活動を行い、協力して宿泊生活を行うことで、自分に自信を持ち、自主性や他者を思いやる心をはぐくみ、よりよい集団を形成する意欲と行動力を培うことを目的としている。

また「サマーチャレンジ」では、埼玉県教育局小中学校人事課と連携を図り、「彩の国かがやき教師塾マスターコース」の受講生をボランティア・リーダーとして配置し、活動補助・活動支援を行わせ、学校における体験活動のすそ野を広げる人材育成の場として、事業の充実を図っている。

(2)実施概要

○期日

【事前説明会】令和6年7月7日(日)(日帰り)

【サマーチャレンジ】令和6年8月17日(土)～20日(火)(3泊4日)

○参加者

【対象】小学4年生～中学3年生 39名(男子17名、女子22名)

【内訳】

小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
4名	9名	11名	3名	7名	1名

○班編成

・1班5名で8班に編成(異年齢集団)

○サポートスタッフ

・ボランティア(彩の国かがやき教師塾マスターコース):15名

・秩父市立病院看護師:3名

2. サマーチャレンジ事業の内容

(1) 日程

① 参加者事前説明会

5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
					受付	開会式・事業説明	アイスブレイク	昼食	施設探検	閉会式・解散							

② サマーチャレンジ

5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
					受付	開会式	オリエンテーション	入室	昼食	アイスブレイク	カレーづくり		ふりかえり	ハイキング事前学習	入浴	就寝	

8月18日(日) 2日目		起床	つどい	朝食	活動準備	バス移動	ハイキング				バス移動	ふりかえり	キャンプファイア練習	夕食	キャンプファイア練習	入浴	就寝
-----------------	--	----	-----	----	------	------	-------	--	--	--	------	-------	------------	----	------------	----	----

8月19日(月) 3日目		起床	つどい	朝散歩	朝食	活動準備	木工体験		昼食	まんじゅう作り	ふりかえり	自分への手紙	キャンプファイア準備	夕食	キャンプファイア	入浴	就寝
-----------------	--	----	-----	-----	----	------	------	--	----	---------	-------	--------	------------	----	----------	----	----

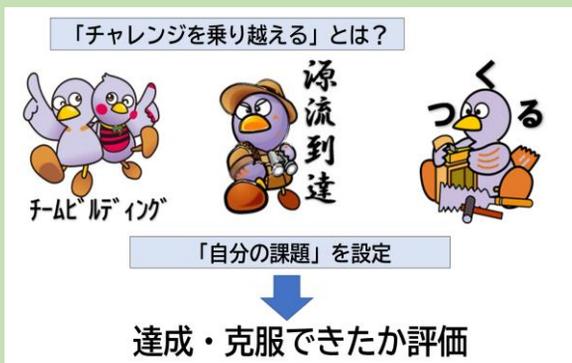
8月20日(火) 最終日		起床	つどい	朝食	退室準備	部屋点検	ふりかえり	決意発表	閉会式	解散
-----------------	--	----	-----	----	------	------	-------	------	-----	----

(2)プログラムデザインについて

事業の目標 「自己肯定感を高め、自信を獲得する」

上記の目標を達成するため、①自分に向き合う、②仲間の大切さに気づく、③自分の価値に気づく、④自分の可能性に気づく経験をサマーチャレンジの中でさせることが重要と考え、①～④の経験ができる4つの取組をデザインし、3泊4日のプログラムに配置した。

①自分に向き合う取組

<p>8/17(土) 1日目</p>	<p>【課題設定・ふりかえり】 取組のポイント</p> <ul style="list-style-type: none">・事業全体の個人目標を立て、サマーチャレンジに参加する意思を固めることができる・「挑戦の証カード」で課題を設定し(毎日)、プログラムに参加する意欲を高める・ふりかえりで(毎日)、自分の取組を自己評価し、成長や心の変容を実感する  
<p>8/19(月) 3日目</p>	<p>【クラフト・キャンプファイア・1ヶ月後の自分への手紙】 取組のポイント</p> <ul style="list-style-type: none">・自由に発想できる活動に取り組み、失敗を恐れずにチャレンジする・新しいアイデアを生み出し自分なりの表現することを楽しむ・未来の自分を想像し、今の気持ちや考えを整理することで自己理解を深める

②仲間の大切さに気づく取組

<p>8/17(土) 1日目</p>	<p>【施設利用ガイダンス・アイスブレイク・カレーづくり】 取組のポイント</p> <ul style="list-style-type: none">・共同生活に必要な心構えや施設利用のルールを覚える・アイスブレイクでは異なる考え方や価値観に触れながら、仲間と関わり認め合う・カレーづくりでは班で役割を分担し、自分の役割を果たすことで、協調性やリーダーシップを身につける・助けが必要な場面はお互いに協力する 
------------------------	--

③自分の価値に気づく取組

【仲間からのフィードバック・缶バッジ授与・修了証授与】

8/17(土)
1日目

取組のポイント

- ・仲間からのポジティブフィードバックで自分の長所に気付く
- ・ふりかえりで課題を達成した証として缶バッジを獲得し、自信をつける
- ・閉会式ですべての課題を達成した証として修了証を受け取り、達成感を味わう

8/18(日)
2日目

コメント一覧（一緒に活動してみた感想をコメントしよう）

👤 _____ 😊 😐 😞 🙄

👤 _____ 😊 😐 😞 🙄

👤 _____ 😊 😐 😞 🙄

👤 _____ 😊 😐 😞 🙄

8/19(月)
3日目

8/20(火)
4日目



④自分の可能性に気づく取組

8/18(日)
2日目

【ハイキング】

取組のポイント

- ・困難な状況でも自分で考え、あきらめずやり抜く
- ・最後まで仲間と励まし合い、協力してゴールを目指す



8/20(火)
最終日

【決意発表】

取組のポイント

- ・4日間を総括し、今後の生活に生かす方法を考える
- ・まとめをもとに自分の考えを言語化し決意を発表する
- ・最後までやり抜いた自分をふりかえり、成長を実感する



まとめカード

_____ 氏名 _____

サマーチャレンジであなたが経験したことや、感じていることをまとめよう。「ふりかえりカード」も参考にしてください。

①サマーチャレンジで心に残っていることは何ですか。

②サマーチャレンジで学んだことは何ですか。

最終課題：決意表明

サマーチャレンジが終わった、あなたの「決意」を書きましょう。

(3)IKR評定「生きる力」の変容調査について

事業における変容尺度として、「生きる力」を測定するための「IKR評定用紙(簡易版)」のアンケートを活用した。IKR評定は、自信と関連する質問が28項目あり、質問に対して高い評価をすることは、自己肯定感の高まりを検証できる評価方法である。具体的には、参加した子どもたちを対象に、事前・事後・1か月後のアンケート結果に統計的な分析を加え、各項目にどのような差が表れたかを比較することで、事業の効果を高める上で重要な取り組みについて検証することを目的とした。

【対象】

調査対象者は、サマーチャレンジに参加した小学校4年生から中学校3年生までの38名とした。

【方法】

個別記入形式の質問紙調査で実施した。事前調査に関しては、第1日目「オリエンテーション」時に質問紙を配布し記入させた。事後調査に関しては、最終日「ふりかえり」時に質問紙を配布し記入させた。1か月後のアンケートについては依頼状と質問紙を返信用封筒とともに送付し、回収した。なお同一個人での変容を見取るため、氏名を記入させた。

【調査内容】

28項目の「生きる力」を測定する尺度に関する項目を設定し、「とてもよくあてはまる」を6点、「まったくあてはまらない」を1点とした6段階で、あてはまると思う数字に印をつけさせた。

アンケート調査 (月 日実施) _____ 班 名前 _____
 性別 (男 ・ 女) 学年 (小4 小5 小6 中1 中2 中3)

書き方
 質問をよく読み、「とてもよくあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの6段階で、自分がかつてもあてはまると思う数字に、○印をつけてください。
 ・考えすぎると答えられなくなることがあります。あまり考えすぎずに答えてください。
 ・結果を発表したり、他人に言ったりすることはありません

NO.	質問	あてはまる程度					
		6	5	4	3	2	1
1	いやなことは、いやとはっきり言える	6	5	4	3	2	1
2	人のために何かをしてあげるのが好きだ	6	5	4	3	2	1
3	先を見通して、自分で計画が立てられる	6	5	4	3	2	1
4	暑さにまけない	6	5	4	3	2	1
5	だれにでも話しかけることができる	6	5	4	3	2	1
6	花や風景などの美しいものに感動できる	6	5	4	3	2	1
7	多くの人に好かれている	6	5	4	3	2	1
8	人の話をきちんと聞くことができる	6	5	4	3	2	1
9	自分のことが大好きである	6	5	4	3	2	1
10	刃物や道具を上手に使える	6	5	4	3	2	1
11	自分からすすんで何でもやる	6	5	4	3	2	1
12	いやがらずによく働く	6	5	4	3	2	1
13	早寝早起きである	6	5	4	3	2	1
14	自分かってなわがままを言わない	6	5	4	3	2	1
15	小さな失敗をおそれない	6	5	4	3	2	1
16	人の心の痛みがわかる	6	5	4	3	2	1
17	自分で問題点や課題を見つけることができる	6	5	4	3	2	1
18	ケガをしてもがまんできる	6	5	4	3	2	1
19	失敗しても立ち直るのがはやい	6	5	4	3	2	1
20	気候の変化を感じるることができる	6	5	4	3	2	1
21	だれとでも仲良くできる	6	5	4	3	2	1
22	その場にふさわしい行動ができる	6	5	4	3	2	1
23	だれにでもあいさつができる	6	5	4	3	2	1
24	電化製品に頼らず生活ができる	6	5	4	3	2	1
25	前向きに物事を考えられる	6	5	4	3	2	1
26	自分に割り当てられた仕事はしっかりとやる	6	5	4	3	2	1
27	からだを動かしても疲れにくい	6	5	4	3	2	1
28	お金やモノをむだ使いたくない	6	5	4	3	2	1

(4)実践報告

8月17日(土) 1日目

オリエンテーション・アイスブレイク、カレーづくり

1日目。テーマは「チームビルディング」。班編成後の「オリエンテーション」でサマーチャレンジの目標を一人一人発表し共有しました。その後の「アイスブレイク」では仲間づくりゲームでお互いの特徴を知ること、緊張もほぐれ笑顔が見え始めました。「カレーづくり」は班で行う初めての共同作業でした。メンバーで役割分担をして、準備から片付けまで仲間と力を合わせて、4日間生活するチームの結束を固めました。



【1日目のふりかえりから】

- マッチと新聞紙で火をつけるのはとても難しかったけど、みんなのために目をこすりながら頑張った
- はじめて親がないところでカレーを作って不安だったけど、料理が得意な人に助けられた
- みんなで仕事を分け合ってから、少しでもみんなの役に立てるように、率先して仕事を行うようにした

荒川源流ハイキング、スタンプ練習

8月18日(日) 2日目



2日目。テーマは「源流到達」。武蔵野を流れる「荒川」の起点まで、往復12キロの道のりを歩きました。暑さが心配されましたが、前日にハイキング事前学習を実施したことで体調管理や登山の約束事などチームで助け合いながら取り組む姿が多くみられ、全員が最後まで歩ききることができました。ゴール後は全員で成果をたたえ合い、充実したふりかえりができました。

【2日目のふりかえりから】

- 一人では乗り切れないような距離を仲間と背中を押し合ってチーム全体で乗り越えることができた
- 自分に負けそうになっても、気持ちを前向きに、最後まであきらめないで一步一步、歩ききった
- 本で見たような、住んでいる場所から遠く離れた所まで、自分でも挑戦できたことがうれしかった

8月19日(月) 3日目

木工体験、まんじゅうづくり、キャンプファイア

3日目。テーマは「つくる」。
木や枝の自然物と工具を使ってキーフックを作りました。慣れない道具や作業でも集中して制作していました。まんじゅうづくりではお世話になったスタッフの分までつくり、プレゼントする場面がありました。キャンプファイアでは子供が主体となって計画した内容をみんなで盛りあげ、全員の気持ちを一つに火を囲んでいました。



【3日目のふりかえりから】

- みんなで協力してつくったら、きれいなおまんじゅうでもおいしく感じた
- 本物の木を使って、自分では作ることができない世界に一つだけの作品をつくることができた
- みんなとファイアを囲んで思い出話をしたり、思いっきりダンスして笑ったことは一生の思い出です

ふりかえり、決意発表、閉会式

8月20日(火) 最終日



最終日。テーマは「決意」。
4日間の活動を振り返り、サマーチャレンジでの経験を、今後の決意として全員が発表することができました。中には原稿を持たず、堂々と発表する子供もいて、前向きな気持ちで事業を終えたことが伝わってきました。最後は修了証の授与とともに一人一人の成果や活躍を伝え合い、仲間やスタッフとの別れを惜しみながらの解散となりました。

【決意発表から】

- 初めて会う子と支え合って4日間過ごせたので、知らない人とでも協力することをこれからも続けたい
- 帰ってからも先を見て行動し、物の管理と時間の管理を自分たちだけでできる自信をもてた
- みんながうれしい言葉や励ましの言葉を大切に、笑顔を忘れず、恐れず挑戦を続けたい
- 協力すればどんなことでも超えられるし、みんなが挑戦すれば一人じゃできないことも成し遂げられる
- みんなの挑戦が自分の背中を押してくれたから、みんなの勇気になる挑戦ができる人間になりたい

3. 調査結果

(1)「生きる力」の変容について

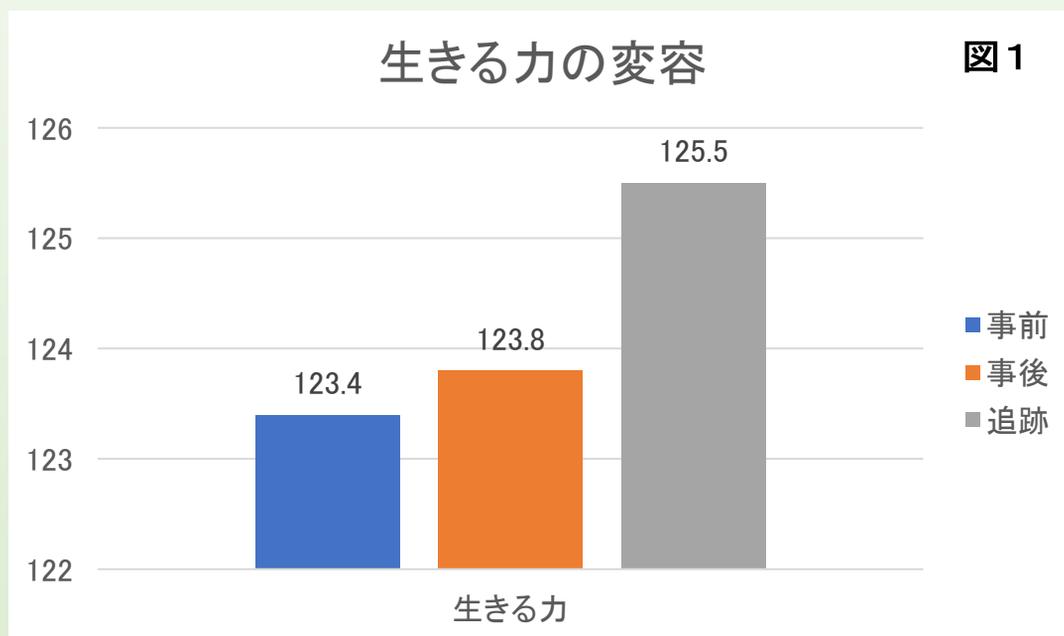
事前調査・事後調査・追跡調査において、38人のデータを集計し、28項目の平均値と変化量を算出した。「生きる力」の得点の推移は、図1のとおりである。事後調査、追跡調査と進むにつれ、平均値は上昇しているが、推移の変化量が小さく、「生きる力」の測定尺度としては、統計上の有意差を確認することはできなかった。

そこで「生きる力」の測定尺度である28項目の質問のうち、顕著な推移がみられた項目を比較することで、サマーチャレンジの事業効果を検証することとした。

事前一事後調査の比較では、12項目で事前調査の平均値を上回っている。特に「自分で問題点や課題を見つけることができる」「だれにでも話しかけることができる」「多くの人に好かれている」「自分からすすんで何でもやる」「小さな失敗をおそれない」項目の変化量が顕著である。事前調査の平均値を上回った12項目は、共通してサマーチャレンジ中の具体的な活動場面での成果を反映しやすいものであり、多くの子供が自分の変容や成長を、最終日には実感できていたことがうかがえる。

また、事前一追跡調査の比較では17項目が、さらに事後一追跡調査では、7項目が直前の平均値を上回り、事業終了1ヶ月後も効果が持続していることが認められる。特に事後一追跡調査の比較において、「先を見通して、自分で計画が立てられる」「前向きに物事を考えられる」「失敗しても、立ち直るのがはやい」「だれとでも仲良くできる」項目の推移は、事業終了1ヶ月後においても顕著な変化量を示している。

これはサマーチャレンジにおける「自分と向きあう取組」「仲間の大切さに気づく取組」「自分の価値に気づく取組」「自分の可能性に気づく取組」が調査項目の推移に影響を及ぼし、子供が自信の獲得を実感し、事業終了後にも効果を持続できた要因になったと考えられる。



(2)参加者の変容について

変容が見られた参加者のコメントに注目した検証

参加者A(中学生女子)



- 特徴①:人と関わるのが苦手で、自分から話しかけられない
特徴②:自信がなく自分から進んで行動することに不安を感じている



事後調査の「多くの人に好かれている」の項目で数値が上昇
追跡調査の「自分のことが大好きである」の項目で事後調査より数値が上昇

【ふりかえり・決意発表から】

- まんじゅうづくりではボランティアの大人がいない中、班をまとめないといけなくてプレッシャーを感じたけど、みんなの協力で最後までつくれて、「おいしい」って言ってもらえた
- キャンプファイアでは「火の妖精」に立候補した。大きい声を出せなかったけど、みんなから「よかった」と言ってもらえた
- 自分には味方がいることに気づけた。自分も困っている人に寄り添える人になりたい

ふりかえりの場面において、「他者からの肯定的なフィードバック」を受け、「自分の存在意義」を実感できた経験が影響し、自己肯定感が高まっていることが推察される。【自分の価値に気づく取組の成果】

参加者B(小学生女子)



- 特徴①:人と関わることを苦手としている
特徴②:自分よがりになって友達とうまくいかない



事後調査の「自分勝手なわがままを言わない」の項目で数値が上昇
追跡調査の「だれとでも仲良くできる」の項目で事後調査より数値が上昇

【ふりかえり・決意発表から】

- 仕事を分け合ったことで、みんなでやるほうが一人よりもうまくいくことがわかった
- 自分が挑戦するためには人の支えが必要なので、知らない人とでもなかよく協力したい
- 人とかかわることがにがてだったがもっと人と関わりたい

班活動において、「自分の役割」を選ぶ機会やペア活動で「人の助け」を借りる経験が影響し、人との関わりが深まっていることが推察される。【人の大切さに気づく取組の成果】

参加者C(小学生男子)



- 特徴①:体力に自信がなく、あきらめてしまったり、弱音を吐いてしまう
特徴②:以前ハイキング事業に参加しているが、途中でリタイアしてしまった



事後調査の「小さな失敗をおそれない」の項目で数値が上昇
追跡調査の「前向きに物事を考えられる」の項目で事後調査より数値が上昇

【課題設定・決意発表から】

- 今回は絶対に最後まで歩ききり、リベンジする
- 弱音を言ってもいいから最後まで歩き続けたい
- 困難を乗り越えられた自分を信じて、新しいことにチャレンジし続けたい

活動前において、「自己決定」の機会や「自分なりの解決策」を考える経験や、「困難を克服」する経験が影響し、自己実現への気持ちが高まっていることが推察される。【自分の可能性に気づく取組の成果】

4. 成果と課題

(1) 成果

- 明確な「目標」を設定し、達成するために必要な要素として、4つの取組をプログラム中にデザインしたことで、子供が自己肯定感を高め自信を獲得できたこと
- 4つの取組の中で行ったプロセス、「自己決定」「創意工夫」「役割の評価」「肯定的助言・助力の獲得」「困難の克服」の機会は、体験活動の効果を上げるプロセスとして、引き続き本所プログラムで取り入れられること
- 事業の中で、課題の設定からフィードバック・達成度確認・ふりかえりの流れを確立したこと
- 証として「缶バッジ」や「修了証」を授与することで、全員で達成する喜びを分かち合えたこと
- 全員が決意発表で今後の展望について述べ、子供の未来につなげる事業になったこと
- 毎日HPへ掲載した写真を多数の保護者が閲覧していたことで、閉会式において子供の成長について共感する保護者が多数いたこと

以前に大滝げんきプラザで行われた、「宿泊自然体験活動の調査」では、事前・事後調査での平均値の比較に留まっていたが、今回は平均値の比較と子供の変容の關係に統計的分析を加えることで、事業効果を高めるための取組を実証することができた。意図的なプロセスを事業や体験活動において経験させることで、子供が自信の獲得を実感し、事業終了後も教育効果として持続できる要素を見出せたことは、今後の大滝げんきプラザの事業実施において大きな成果である。

(2) 課題

- 体験活動の効果を上げるプロセスに必要な「活動資料」や、事業終了後の成果をみとることができるアンケートの開発を行うこと
- 事業実施中にアンケート結果を共有・活用した活動支援が行えるシステムを検討すること
- 追跡調査アンケートにおいて数値だけでなく、子供の声も収集し、定性評価の材料とすること
- 追跡調査アンケートにおいて、保護者からのコメントも集め、事業終了後の子供の様子を聞き取ること
- 「生きる力」の測定尺度において、「徳育」に関する項目の変化量が目立たなかったことから、チームビルディングや人との関わりに関するプログラムを充実させること

(3)事業担当より

「自信をもつきっかけ」

事業担当 高野 淳

サマーチャレンジでは主担当として事業に携わることができた。「自分の力をためしたい」「人の役に立ちたい」そんな思いを持った38名とともに、「自己肯定感」を高め「自信」をつけることを追求し、事業を最後まで完結させることができた。今回の事業では、子供たちの思いに応えるべく、具体的な手立てとして次のことに取り組んだ。

1つ目はプログラムデザインの工夫である。「自己肯定感」を高め「自信」をつけるための活動のポイントを事業担当で検討した結果、4つの取組について実践することができたことで、事業のねらいにせまるプログラムとなった。

2つ目は「生きる力」を測定するアンケート調査を実施し、統計的な尺度を活用して子供の変容を検証したことである。子供の変容が見られたプログラムについて検証し、集団宿泊体験活動の指導上の留意点にスポットを当て、効果的な活動について示すことができた。

なによりも子供たちが自己肯定感や自信を実感し、事業をきっかけにあらたな生活をスタートさせるきっかけをつくることが何よりの成果だと感じた。この事業にあたり、ご協力いただいた関係各位の皆様、保護者の皆様に心より感謝を申し上げます。

「事業を振り返って」

事業担当 長尾 哲也

「自己肯定感を高め、自信を獲得する」というサマーチャレンジのねらいに対して、正対することができた事業であった。上記の目標の達成に向けて、日ごとに個人が目標を立て(スモールステップ)、1日の終わりに班と個人で振り返り、評価するという流れを毎日作ることで、参加者にとって何を頑張ればよいか明確になった。また、目標を達成したと班員に認められれば缶バッジをもらえるというシステムは、単に子どもたちの意欲喚起につながるだけでなく、評価するためには自分以外の人の活動に目を向ける必要があり、社会生活に必要な資質の育成につながることができた事業であったと評価できる。

「チャレンジの価値」

事業担当 野口 知大

サマーチャレンジの4日間は、親元を離れ、自然に囲まれた中で、仲間と触れ合い、非日常的な環境の中で活動をした。参加した子供たちは、チームビルディングや源流ハイク、木工・伝統食づくり体験の活動後、自分ができるようになったこと、成長したことをその日のうちに振り返り、仲間に対して肯定的なフィードバックも与えた。最終日は、改めて自分自身を見つめ、これから自分がどのように生きていくのか、決意発表をした。得られた効果・自分自身を見つめ直し、子供同士で団結力を高め、主体的な心の醸成が図られた。最終日には子供の成長を保護者が実感できるほど事業効果があったと感じた。

(4) ボランティアより

「活動をふりかえって」(感想より抜粋)

令和6年度「彩の国かがやき教師塾マスターコース受講生」

- 共に協力して生活することを通して人間関係を学んでいく事業は勉強になった
- 自分でやってみるというチャレンジ体験を少しずつ積み重ねることで成長が見られた
- 気持ちに寄り添った声かけのしかたで、子供が前向きな気持ちに変わっていった
- まずはやってみて、そこから何かを見つけ、学ぶ「チャレンジ精神」の大切さを感じた
- 前向きな思考をもたせる「きっかけ」を見つけていく教師の力の大切さを感じた
- ICTの充実で、実際にやってみることが少ない時代にこの事業はとても貴重だと思う
- 宿泊学習はもちろん、子供が学べる多くの教材がげんきプラザにあることがわかった
- ネガティブ発言が多かった子も仲間意識の芽生えとともに前向発言をするようになった
- 諦めずに頑張る大切さや良さを体感できた
- 子供の発言や行動の背景にある子供の思いや願い、抱えている課題を探る力をつけたい
- 1人1人が挑戦できる環境をととのえることが教育の場に必要だと思った
- 教育は準備段階で意図的・具体的にイメージして先を見通すことが大切だと感じた
- 信頼関係は時間ではなく、生活を共にすることの経験によって築けると思った
- 自ら体験する、目標をもって挑戦する、周りの人のよさを実感できる学級をつくりたい
- 人間関係作りにおいてどのような経験や働きかけが大切なのかとても勉強になった
- 集団生活の中で「仲間のために」といった仲間意識が醸成されていく過程がわかった



げんきプラザは集団宿泊、自然体験活動等を通じて、青少年の健全な育成を図るとともに、
県民の生涯学習活動の振興に資するための社会教育施設として、県内6所で様々なプログラムを提供しています。



令和6年度 埼玉県立大滝げんきプラザ職員

所 長 江森 貴文

担当部長 町田 晴男

事業担当 高野 淳 / 長尾 哲也 / 野口 知大

総務担当 秋元 清二 / 八子 拓弥

令和6年度 大滝げんきプラザ主催事業 サマーチャレンジ 検証報告書

【大滝げんきプラザホームページ】
大滝げんきプラザでは様々なプログラムを
提供しています。
詳細は右のQRコードを御参照ください。

